

第1章 「教育内容の改革」編 20事例

- 1. 学校設定教科・科目の新設 p.1
- 2. 中高連携、高大連携 p.2
- 3. 探究学習の支援 p.5

第3章 「物的条件の改革」編 21事例

- 1. 教育内容の高度化のための
最新設備の導入・活用 p.21
- 2. 教育環境の質的向上のための改修等 p.26

第2章 「人的条件の改革」編 53事例

- 1. コーディネーターの配置 p.7
- 2. 教育委員会（自治体）のサポート p.8
- 3. 学校の体制強化、校務の効率化 p.10
- 4. 地域との連携・協力の強化 p.15

第4章 「域内への普及」他編 18事例

- 1. 教員研修の実施 p.28
- 2. 学校間連携の強化等 p.30

※一部の事例は、複数の章に関わる視点もあります

○アイデア集の使い方

◆本資料では、都道府県の担当者が改革先導拠点での取組を検討いただく際に**参考となる事例を幅広く紹介**しています。

◆もちろん、**本資料に記載のない取組を行うことも可能**であり、**各改革先導拠点において達成したい目的に照らし、適切な取組を検討**いただくようお願いします。

◆本アイデア集で紹介する内容と類似する取組を検討いただく際にも、**別途お示しする公募要領等を踏まえ、要する経費が補助対象となるか確認**するようお願いします。

産業界等との連携体制構築
企業から管理職相当職員を招聘

ポイント >>>
産業界と高等学校の連携をコーディネートする職員（例：マイスター・イスクールCEO）を民間企業から招聘。

実施内容 >>>
招聘したCEO主導のもと、多様な民間企業の協力を得て授業・実習を行う。学校内にCEOの役職を位置づけることで、学校内からの改革を推進する。

マイスター・イスクール
CEO（コーディネーター機能）

タイトルとともに、事例のポイントとなるキーワードを示しています。

事例の目的や基本となる考え方を示しています。

事例の具体的な取組内容やビジュアル、検討の参考になるアイデアを紹介しています。



学校設定教科・科目の新設



学科改編 # 学校設定科目

特定分野の技術を学ぶ学科の設置や
学校設定教科・科目の開設

ポイント >>>

AI、半導体、量子、造船、バイオ、航空・宇宙等、経済成長の実現に資する重点分野や、観光ビジネス、土木、伝統建築物の保存・修理などの特定分野における専門人材の育成のため、関連の学科・コースを設置/学校設定教科・科目等を開設。

実施内容 >>>

半導体、造船、宇宙などの産業における人材需要を踏まえ、特定分野に特化した学科・コースを設置。また、学校設定教科・科目等を開設する。関連企業の技術者による授業や、企業・大学の設備を利用した体験学習などを実施。関連する分野の知識・技術を幅広く学び、次世代の地域産業を担う人材を育成する。



地域企業から学ぶ # 学校設定科目

地域企業の技術を学ぶ学校設定科目

ポイント >>>

地域企業の先端技術を、1～3年次に系統立てて学ぶ学校設定科目を開設。

実施内容 >>>

1年次では地域企業の見学等により、概略を学ぶ。2・3年次では実習において、地域企業の技術者から直接技術を学ぶ取組を実施。



学科改編

特色ある学科・新たな形の学科の設置

ポイント >>>

学校の統合を契機に特色ある学科を設置。

実施内容 >>>

学校の統合を契機に学科の構成を見直し、人材ニーズに対応した特色ある学科や、異なる学科を統合した新たな形の学科を設置。

関連する分野の知識・技術を学び、次世代の地域産業を担う人材を育成する。



多様な学習ニーズに応じた主体的な学び

共生社会を目指した柔軟な教育課程の設定

ポイント >>>

生徒の学習ニーズに対応した多様な教科・科目の設置。

実施内容 >>>

障害のある生徒が在籍していることを前提とした柔軟な教育課程を設定。各教科の基礎的な内容を取り扱う科目や、共生社会を目指す「地域社会への支援」、卒業後を見据えた「キャリア開拓」など、多様な学校設定教科を設置。これらのカリキュラムを検討・調整するコーディネーターとして外部専門家を活用するほか、校内の教職員の障害理解等を高める研修を有識者を招聘しながら実施。

※近隣の特別支援学校と連携し、体育や芸術分野の共同授業等の実施を通じた共生社会の実現を目指した教育も実践。

中高連携、高大連携



大学との連携

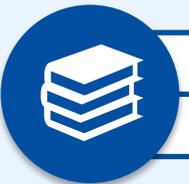
大学教授等から学ぶ・大学設備を使う

ポイント >>>

大学教授等を講師に招いた出前授業や、大学キャンパスを訪問しての体験授業を実施。

実施内容 >>>

大学教授を招聘しての講義や、大学キャンパスにおいて大学設備等を用いた体験授業を実施。より高度で専門的な技術について学ぶとともに、高校段階を超えた学びに触れることで「もっと知りたい」「より学びを深めたい」生徒の意欲を育てる。



自主学習支援

外部人材による自主学習支援

ポイント >>>

外部人材を活用して、生徒の自主学習支援を実施。

実施内容 >>>

放課後、校内の自習室や自習スペースにおいて、外部人材（大学生等）による自主学習支援を実施。予算の範囲内で、各学校の実施計画に基づき決定した額（外部人材の謝金）を支給。



高大連携の強化

大学教育の先取履修を実現

ポイント >>>

高大連携の強化を目的に大学との連携協定を締結。

実施内容 >>>

- ・大学において高校生向けの公開講座やオープンラボを実施
- ・高校生が大学の科目履修生として講義を受講し、大学入学後に同大学の単位として認定する。



理系進学率の向上

女子生徒の理系人材育成

ポイント >>>

女子生徒を対象としたキャリア講演を地元大学と連携して実施。

実施内容 >>>

女子生徒の理系進学を促進するため、将来のロールモデルを提供。仕事と出産・育児を工夫して両立させ、国内外の学会等で活躍する地元の女性研究者から講演会を、地元大学と連携して開催。
※グランドデザインを踏まえ、さらに保護者や地域住民を対象に加え、意識啓発を図ることも考えられる

中高連携、高大連携



中高連携から高校進学へ

中学生への研究発表を通じた高校の魅力発信

ポイント >>>

課題研究の方法や楽しさを県内中学生に伝える発表会を開催。

実施内容 >>>

課題研究の発表会への参加を県内の中学校に広く呼びかけ、オンラインで発信。発表会では研究内容の説明だけでなく、中学生からの質問にも応答。参加した中学生は、課題研究の方法（仮説の設定、実験の方法、発表の仕方）や楽しさ、将来的に期待される水準を学ぶとともに、地元公立高校への進学意欲を高める。



高大連携から大学進学へ

高大連携による学習成果を進路実現に

ポイント >>>

高大連携による学習の成果を進路実現につなげる。

実施内容 >>>

連携先の大学の教員による指導を受けながら課題研究・探究学習を進める。それを受講した生徒のうち大学への進学を希望する者は、大学での学びを視野に入れた指導や評価を受けて、研究発表等を行う。また、連携先の大学等で実施する総合型選抜や学校推薦型選抜の評価においては、課題研究等の成果や成果獲得に向けた努力のプロセス等を積極的に活用する。



学校にしながら大学・企業と協働！

高校内に大学・企業のオフィスを開設

ポイント >>>

高校の校舎内に大学や企業のオフィスを常設し、高校生との協働による研究や起業を支援する。

実施内容 >>>

高校の空き教室等を活用し、大学や企業が利用できるオフィスやラボを開設。低コストでオフィスを提供する条件として高校生の研究や起業をサポートすることを求め、専門人材や高度な研究環境の下で学びを深める機会を創出する。



5年一貫教育

高等教育機関等と連携したカリキュラム開発

ポイント >>>

高等学校と専攻科や専門学校、大学・短大、農業大学校等との連携による一貫したカリキュラム開発により、高等学校からの進学も見据えた人材育成を行う。

実施内容 >>>

高等学校と専門学校等が協定を結び、一貫のカリキュラム開発を行う。高校生は専門学校等の講座を受講可能。また、相互の施設・設備を共用する。当該専門学校等への進学も見据えた、より高度な専門人材を育成する。

中高連携、高大連携



高大連携から大学進学へ

専門高校からの大学への進路モデルの確立

ポイント >>>

専門高校等の特性を踏まえた入試方法の工夫。

実施内容 >>>

専門高校や総合高校と連携する大学等において、職業に関する教科の試験を課す、高校までの学習歴・活動歴を重視する等の入試方法の工夫を行うことで、専門高校等から大学への進路モデルを確立する。

探究学習の支援



探究的な学習の充実

探究学習を支援するコーディネーターの配置

ポイント >>>

行政、地域産業等との連携を担うコーディネーターの配置。

実施内容 >>>

地域の関係機関（行政、民間企業、青年会議所、福祉施設等）との連絡調整や、地域での実習・探究活動の場面での生徒・教員の支援、高校と地域の協働による探究学習を通じた人材育成のビジョン策定等を担う人材を配置するための経費。



課題解決型の取組

連携企業から提示された課題を解決

ポイント >>>

社会に実在する課題を解決するための取組を実施。

実施内容 >>>

関係団体から示された課題の解決に取り組む。
関係団体の技術者を協力講師として迎え、試作品を開発。当事者からのフィードバックを受け、装置を改善するやりとりにより、「誰かの役に立つ技術」を実感。



グローバル人材育成

オンラインを活用した国際協働学習

ポイント >>>

海外の学校とのオンラインによる国際協働学習。

実施内容 >>>

海外の学校とオンラインでつなぎ、グローバルな社会課題の解決に向けたディスカッションや研究発表を生徒主導で運営。多様な背景をもつ同年代の仲間と協同して解決策を探ることで、語学力向上だけでなく、グローバル社会を見据えた人材育成を目指す。



探究的な学習の充実

特色ある探究カリキュラムの実施

ポイント >>>

生徒による主体的な探究カリキュラムの実施。

実施内容 >>>

サキドリ指定校の仕組み等と連動した、学校設定教科・科目としての探究型カリキュラムの開発、地域等と連携したスクールミッションに基づく特色ある探究カリキュラムの実施、学校行事の探究化（探究型修学旅行等）、生徒主体の学校づくり（生徒会・委員会による企画の実施等）など、生徒による主体的な探究活動を促進するカリキュラムを実施。

探究学習の支援



#グローバル人材の育成 (生徒の英語力等の向上)

生徒の英語力等の向上に資する取組の推進

ポイント >>>

生徒の英語力等の向上に資する取組の推進。

実施内容 >>>

外国語の資格・検定試験の活用等によるCEFRレベルでの英語力等の評価の推進や、外国語を学ぶ動機付けを高めるための外国語使用機会の推進（国内外の英語を使う人との交流、英語キャンプ、海外校との交流、英語での探究等）。外国語の授業等におけるAIの効果的な活用に向けた取組の推進。

※オンラインで実施する場合のICT環境整備（通信環境、イヤホン等）を含む。



#グローバル人材の育成 (英語教師・ALT等の指導力の向上)

英語教師・外国語指導助手（ALT）等の指導力向上に資する取組の推進

ポイント >>>

英語教師・外国語指導助手（ALT）等の指導力の向上に資する取組の推進。

実施内容 >>>

- ・ALT等に係る人件費を支援。
- ・学校間連携を含む、英語教師・ALT等を対象とした研修の充実（AIの活用等）。
- ・英語教師の英語力の向上に向けた取組の推進（外国語の資格・検定試験の受験料の補助等）。



#グローバル人材の育成 (留学プログラムの開発)

海外の学校との連携による留学プログラム開発

ポイント >>>

留学先で社会課題研究に取り組むためのプログラムを開発。

実施内容 >>>

留学先でグローバルな社会課題研究に取り組んでもらうためのプログラムを、海外の提携校と共同で開発。留学中に、テーマに沿って、現地の生徒とのグループワーク、現地の企業・NPO等へのインタビュー等をおして解決策をまとめる活動等を実施。留学前にもオンラインで現地の生徒と交流し、問題意識について共有を行うほか、帰国後も共同研究を継続し学びを深める。

※本基金においては、生徒の海外渡航に係る経費は対象外

コーディネーターの配置



産業界等との連携体制構築

企業から管理職相当職員を招聘

ポイント >>>

産業界と高等学校の連携をコーディネートする職員（例：マイスター・ハイスクールCEO）を民間企業から招聘。

実施内容 >>>

招聘したCEO主導のもと、多様な民間企業の協力を得て授業・実習を行う。学校内にCEOの役職を位置づけることで、学校内からの改革を推進する。



マイスター・ハイスクール
CEO（コーディネート機能）



産業界等との連携体制構築

多様な経歴をもつ教委職員がコーディネート

ポイント >>>

様々なバックグラウンドをもつコーディネーター（民間経験者、校長経験者、知事部局経験者）が、高校と産業界の連携を支援。

実施内容 >>>

産業界・学校現場・行政の各分野の支援から、連携体制の基盤づくりと、高校や産業界の課題にあった取組を支援。

情報共有・意見交換等を密に行い、教育分野と行政分野が一体となって連携体制を構築。

※本基金においては、非常勤職員の報酬等に係る経費のみ対象



コンソーシアムの構築

探究活動のマッチングをサポート

ポイント >>>

行政、大学、地元企業等からなるコンソーシアムを構築。

実施内容 >>>

校内に学校と地域とをつなぐコーディネーターを配置し以下の取組を実施

- ① 地域との協働による活動を学校の教育活動に明確化
- ② 専門人材の配置等、校内体制の構築
- ③ 将来の地域ビジョン、求める人材像を共有し、地域協働に資する学習カリキュラムを開発 等



気軽に留学相談

留学をサポートする支援員の配置

ポイント >>>

常駐する留学支援員が留学をサポート。

実施内容 >>>

学内に常駐する経験豊かな留学支援員が、留学に対する漠然とした悩み相談から、留学先やプログラム等の選定、応募できる奨学金の紹介など様々なサポートに対応。また、外国人留学生に対しては日常生活の適応、各種手続き等まで、包括的にサポートを行う。

※本基金においては、生徒の海外渡航に係る経費は対象外

教育委員会（自治体）のサポート



首長部局と連携した人材育成方策の検討

総合教育会議等を通じた首長・関係部局との連携

ポイント >>>

総合教育会議等の運用を工夫し、議論の活性化を促進。

実施内容 >>>

地域産業の現状や課題等をよく踏まえた人材育成に資するよう、改革先導拠点での取組の検討・実施に当たって、以下のような取組を通じて、首長や、首長部局の産業政策担当課等と連携した体制を構築。

- 総合教育会議の事務局を首長部局と教育委員会事務局の共同で運営し、その時点での取組の進捗状況等を踏まえた適切な議題設定を実施。
- 総合教育会議の下に、首長部局の職員や産業界の実務者、学識者等が参加したワーキングチームを設け、総合教育会議での単発的な議題に留まらない継続的な議論を推進。



地域産業に関する外部の知見の取り入れ

教育委員会事務局への外部人材の登用

ポイント >>>

外部人材を教育委員会事務局に登用し、教育委員会事務局職員だけでは不足する地域産業に関する知見を取り入れ。

実施内容 >>>

地域の産業構造や人材面でのニーズ等を熟知した民間のプロ人材を、教育委員会事務局の非常勤職員として採用。改革先導拠点での取組の検討・実施に当たって、専門的な知見を発揮しつつ、首長部局、教育委員会事務局、学校現場の間を繋ぐ役割を期待。

その際、本業のある民間人材を無理なく採用できるよう、「副業可」「兼業可」「テレワーク可」といった条件で採用を実施。

また、外部人材は教育委員会事務局での勤務に慣れていないことから、外部人材を受け入れる担当課に行政職の職員を配置し、外部人材のフォローを行う体制も構築。

教育委員会（自治体）のサポート



都道府県を挙げての取組

教育委員会事務局に推進委員会を設置

ポイント >>>

教育委員会事務局に推進委員会を設置し、取組を推進。

実施内容 >>>

産学連携にかかる課題解決に向けた協議、教員・企業向け研修の企画や事業の評価・改善を行う委員会を、教育委員会事務局に設置。教育委員会主導で域内の高校の職業人材育成を推進する。



産業界等との連携体制構築

連携可能な企業のリスト化・共有

ポイント >>>

産業界から派遣可能な技術者等のリストを作成・共有。

実施内容 >>>

都道府県教育委員会が産業界から派遣可能な技術者等のリストを作成。出前授業やインターンシップ、現場見学など、謝金等不要で専門高校との連携が可能な企業等の情報を掲載。すべての高校に配布し、学校にとって負担の少ない産業界との持続可能な連携に向けて支援。



進学・就職相談支援の充実

オンラインを活用した進学・就職相談の充実

ポイント >>>

外部人材等を活用し、高校にキャリアカウンセラーを配置し、個別相談を充実する。

実施内容 >>>

外部人材等をキャリアカウンセラーとして配置し、生徒の進学・就職相談に対しきめ細かに対応する。また、オンラインにより企業の人材や大学生等の多様な人材ともつながり、生徒が自らの進路決定に必要な情報を得ることができる環境を整備する。



学校の体制強化、校務の効率化



専門的な知識経験等を持つ教師を確保①

特別免許状の授与による専門人材の採用

ポイント >>>
 教員免許状を持たないが、教科に関する優れた知識経験等を有する社会人等を教員として迎え入れる。

実施内容 >>>
 教師以外の経験によって磨かれた専門性を教育現場で活かすために、特別免許状の授与による採用を実施。例えば「宇宙コース」のような、特定分野に係る魅力的な課程を設ける際に、優れた知見を持った人材を外部から招聘することが可能。

※本基金においては、非常勤職員等の、常勤以外の職員の報酬が対象



企業人材活用

企業に勤めながら教師を兼業

ポイント >>>
 企業に勤めている人材を、非常勤講師として任用。

実施内容 >>>
 子供たちに民間企業の経験を生かした指導を行うため、教育委員会と連携協定を結んでいる企業に勤めている社員を特別非常勤講師として採用。ミスマッチを防ぐため、事前に関係者間での面談や学校見学会を実施。



専門的な知識経験等を持つ教師を確保②

博士号を持った教師採用

ポイント >>>
 博士号を持った人材を教師として採用。採用の際は、特別な選考を実施。

実施内容 >>>
 博士号を持った高度人材を積極的に活用するため、博士号取得者に対する特別な選考を実施。採用後は、所属校に限らず、他校にも要請に応じて出向き、高度な知見に基づいた指導を実施する。

※本基金においては、非常勤職員等の、常勤以外の職員の報酬が対象



持続可能な校内体制の整備

全教職員が共通認識・当事者意識をもつ

ポイント >>>
 全教職員が共通認識や当事者意識をもち、学校全体として取組を推進。

実施内容 >>>
 担当の教職員のみならず、全教職員が共通認識や当事者意識を持つことができるよう、校内研修や産業界等関係者との意見交換、先進校の視察などを実施。
 全教職員が産学連携の必要性や意義を十分に理解し、学校全体として取組を推進する。

学校の体制強化、校務の効率化



校務環境DX化プロジェクト

DXによるロケーションフリーの実現

ポイント >>>

DXによる校内外のロケーションフリーの実現により、教職員の業務の質を向上。

実施内容 >>>

校内外におけるネットワーク環境の整備をはじめ、教職員用タブレットの整備、職員室・準備室・事務室間のロケーションフリーに向けたレイアウトの変更やコミュニケーションツールの充実等により、校内外場所を問わず校務を実施できるようにするとともに、各教職員間のコミュニケーションを活性化。



高校の魅力発信

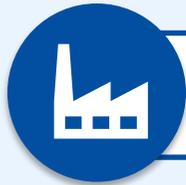
広報資料・ウェブサイトの作成・管理

ポイント >>>

高校の魅力発信のため、民間事業者と連携した広報を実施。

実施内容 >>>

地域コミュニティやとの間の緊密なコミュニケーションを促進するため、民間事業者のリソースも活用し、高校の広報資料やウェブサイト、SNSでの発信や情報交換の充実を図ることにより、高校の魅力の効果的な発信を支援。



ICT機器管理の効率化

民間ノウハウを活用した効率的な管理

ポイント >>>

民間事業者のノウハウを活用し、ICT機器を効率的に管理。

実施内容 >>>

タブレットやネットワークの管理について、民間事業者への委託を実施することにより、効率的かつ教職員に負担の少ない管理方法を実現。

※改革先導拠点における教育改革と一体的に行う取組の経費等が基金の支援対象



安心・安全な学校施設の管理

デジタル技術等を活用した効率的な管理

ポイント >>>

デジタル技術や民間事業者のノウハウを活用した校舎管理。

実施内容 >>>

デジタル技術や民間事業者のノウハウを活用して、学校施設の効率的な管理（校舎の開錠・施錠の機械警備等を含む）を行うことで、副校長・教頭をはじめとする教職員の負担軽減を図りつつ、デジタル認証や顔認証による外部の関係者のスムーズな校舎利用を実現。

※改革先導拠点における教育改革と一体的に行う取組の経費等が基金の支援対象



学校の体制強化、校務の効率化



校務DX

学習評価や成績処理におけるデジタル技術の活用

ポイント >>>

デジタル技術を活用した学習評価や成績処理を実施することにより、教師の業務を効率化。

実施内容 >>>

学習評価や成績処理の場面においても、自動採点ソフトなど民間事業者が提供するデジタル技術を積極的に活用することで、教師が生徒に向き合う時間を創出。



学校行事の魅力化・効率化

学校行事の運営を外部委託

ポイント >>>

魅力的な学校行事の実施に向けた運営を支援。

実施内容 >>>

体育祭や文化祭、地域関係者を巻き込んだイベントなど、学校行事の調整、運営に民間事業者を活用し、効率的な運営や、民間ノウハウを活用した魅力的な運営を実現。



進路指導

専門人材を活用した進路支援

ポイント >>>

キャリアコンサルタント等の専門人材を活用し進路支援の充実と教師の負担軽減を両立。

実施内容 >>>

学校の進路部にキャリアコンサルタントの国家資格を有する専門人材や事務スタッフを配置し、求人企業の情報やインターンシップの調整、大学等の進学先に係る情報を整理し、進路担当の教師と連携し、一人一人の生徒のニーズに合わせた進路支援を実施。



理数系教育の強化

学習指導要領改訂を見据えた数学教育改革

ポイント >>>

学習指導要領改訂の議論を踏まえた数学教育改革の実施。

実施内容 >>>

研究を実施するための教育課程の特例（学校教育法施行規則85条）の適用するなどにより、以下の数学教育改革に取り組む。

- ・高校数学の全体像（見取り図）や、数学と社会・職業との関係等について学ぶ「数学ガイダンス」の新設
- ・数学A,B,Cの区分けをなくし、必要な学習内容の選択を容易化
- ・数学Ⅰ（必修）における「社会を読み解く数学」の新設や、中学数学までの丁寧な学び直し

学校の体制強化、校務の効率化



ICT教育支援

外部人材活用によるICT教育支援

ポイント >>>

外部人材活用により、円滑なICT教育実施のための支援を実施。

実施内容 >>>

高校におけるICTの活用や、教育DXの推進、複数の学校をまたいだ教育（遠隔授業）の実施など、先端的な教育を実施するために必要な準備や調整等を担う人材を配置



理数系授業を徹底サポート

デジタル領域アシスタントティーチャーの導入

ポイント >>>

情報・理数科目の指導を徹底的にサポートする「デジタルAT」を設置し、授業をさらに強化。

実施内容 >>>

情報や理数探究の実習を含む授業にアシスタントティーチャーを設置。実習環境の構築・端末やソフトウェア・外部機器等の設定を行うとともに、技術的な躓き、個別質問等への対応を行い、専門性の高い授業をサポート。



校務DX

教職員が作成した教材等のクラウド上での共有・活用

ポイント >>>

教職員間で教材等を共有することにより、新規作成負担を軽減。

実施内容 >>>

クラウドツール等を活用し、教職員間での教材等の共有・教養を通して、教職員ごと、年度ごとに新規作成する資料の数が削減されることで教職員間の負担軽減を実現。



校務DX

生成AIの校務での活用

ポイント >>>

校務に生成AIを活用することにより、作業時間を削減。

実施内容 >>>

「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」等を踏まえつつ校務に生成AIを活用することで、長時間かかっていた作業（教材やテスト問題、校外学習等の工程、研修資料の作成等）の効率化を実現

学校の体制強化、校務の効率化



地域の不登校支援の拠点

学びの多様化学校の設置と体制整備

ポイント >>>

学びの多様化学校の設置とその体制整備による域内の不登校支援の充実。

実施内容 >>>

地域の不登校対策の拠点となる学びの多様化学校の設置に加え、専門スタッフの雇用など、当該学校で導入されている先進的な取組を全日制・定時制高校にも実施するための必要な体制整備を実施。



不登校生徒に対する相談支援

オンラインカウンセリングの導入

ポイント >>>

不登校となった高校生に対するオンラインカウンセリングの導入。

実施内容 >>>

対面による相談支援を受けていた生徒が、不登校等により登校できない場合でも相談支援を受けられるようにするため、オンラインカウンセリング等、自治体における広域的な相談支援体制・環境を整備。



不登校生徒に向けた学習機会の確保

全日制・定時制における遠隔授業や通信教育の活用

ポイント >>>

全日制・定時制高校において、不登校生徒に対して、遠隔授業や通信教育の活用を通じて、学習機会を確保。

実施内容 >>>

全日制・定時制高校において、不登校生徒の進路保障を目的として、学びの機会を確保・充実するためのネットワークを構築。不登校生徒の進学支援について専門機関との連携や、不登校生徒に対する遠隔授業や通信教育の活用方法に関する研究を実施。その成果は、域内の高校にも共有。

※令和6年4月の「高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」を踏まえた制度改正により、全日制・定時制高校において不登校生徒等向けに通信教育等が実施可能となっている



どの学校でも通級による指導が受けられる

地域連携による通級による指導の体制づくり

ポイント >>>

どの高校の生徒も通級による指導を受けられる地域連携体制、指導内容の充実を図るための施設等の整備。

実施内容 >>>

どの高校の生徒でも希望すれば通級による指導を受けられるよう、対象生徒が在籍する複数校に担当教員が巡回する体制を一定の地域的まとまりで構築。各高校では、自立活動のための特別教室や必要となる備品の整備、特別の教育課程の編成に関する研究などを実施して指導内容の充実を図る。また、大学・発達障害者支援センター等の外部有識者による指導助言も活用。

地域との連携・協力の強化



放課後の学びの充実

高校の所在地の市町村による学習支援

ポイント >>>

高校の所在地の市町村が、外部人材や事業者による学習支援を実施。

実施内容 >>>

土日・放課後・長期休業中に、校内の空き教室や地域の施設等で実施。内容は、個別指導、授業の復習、定期試験対策、大学受験指導、キャリア教育、小論文・志望理由書指導、実験・体験型学習、など。



学力向上支援

民間事業者等を活用した学習支援

ポイント >>>

民間事業者等を活用して、生徒の学習支援を実施。

実施内容 >>>

土日・放課後・長期休業中に、校内の空き教室や地域の施設等において、民間事業者等が講師を派遣し、授業等を実施。都道府県教育委員会から、事業者へ委託。



大人との対話を通じた進路実現

キャリアラボ設置による進路指導の強化

ポイント >>>

卒業生が学校内に在室し、進路相談や将来の夢の実現を支援。

実施内容 >>>

学校運営協議会による発案。社会で活躍する卒業生が学校内に在室し、昼休みや放課後の時間に進路相談や将来の夢の実現を支援し、豊かなキャリア形成を図る。ラボに在室するスタッフは、コワーキングスペースとして活用。



放課後の学びの充実

寮学一体型複合施設での学習支援

ポイント >>>

学習スペースを強化した寮において、生徒の学習支援を実施。

実施内容 >>>

従来の寮に学びの機能を追加した寮学一体型複合施設を整備。事業者へ委託し、授業の予習復習、試験対策、探究のサポート、受験指導、外部ゲストを招いてのキャリアイベント、個別相談等を実施。

地域との連携・協力の強化



オンラインでの放課後学習支援

市町村によるオンラインを活用した学習支援

ポイント >>>

バーチャルオフィスツールを活用した放課後の学習支援。

実施内容 >>>

平日の放課後2時間程度、オンラインで学習支援の場を設定。生徒たちは、オンライン上でチューターに質問したりしながら、自主的に学習を進める。当該校の所在自治体の教育委員会職員が学校運営協議会委の熟議により、スムーズに開設。



地域づくりの担い手育成

市町村との連携による探究活動の深化

ポイント >>>

町の事業である市民大学講座に高校生が参加し、探究活動を深化。

実施内容 >>>

地元高校による地域づくりの担い手育成と活力ある地域社会の形成、継続を目指して、自治体の事業と連携して探究活動を充実させる。1年間継続して講座を受講し、地域づくりの視点を学ぶ。学ぶ内容についても、学校運営協議会でも熟議。



地域探究による学びの深化

地域探究学習プログラムによる学習支援

ポイント >>>

企業や自治体と連携して、地域探究学習を実施。

実施内容 >>>

夏休みに、地域探究学習プログラムを2泊3日で実施。地元自治体を舞台にして、探究テーマに設定し、前・中・後学習を通じて地域課題に向き合い、成果を発信。企業や自治体との連携により、体験型な学習機会を提供。



地域への理解を深める

外国人留学生の視点から地域課題解決

ポイント >>>

自治体やNPO等と連携した地域課題解決型学習等の実施。

実施内容 >>>

外国人留学生に、地域に親しみ理解を深めてもらうために、自治体やNPO等と連携し、外国人の視点を活かした観光や地元の魅力発信、防災や多文化共生等の地域課題解決型学習を実施。また、お互いの文化について学び教えあう異文化理解プログラムを実施することで、地域における多文化共生社会の実現に貢献する。



地域との連携・協力の強化



株式会社を通じた学び

株式会社による専門高校の教育の深化

ポイント >>>

ビジネスの立ち上げから運営までを、会社を通して実践的に学習。

実施内容 >>>

地域の大人の方や卒業生が出資し、会社を設立。コンソーシアムも発足し、多数の地域企業や団体、大学とも連携。①地域での資金循環、②アントレプレナーシップ教育（起業家教育）、③地域連携のさらなる強化、を図る。



探究・進路支援

探究活動のサポートや進路・学習相談

ポイント >>>

NPOがコーディネートし、多様な大学生に巻き込んで実施。

実施内容 >>>

さまざまな大学・学部の学生がロールモデルとなり、生徒たちの選択肢を広げる役割を担いつつ、探究活動によって地域とのつながりをもつことで、地域外への進学後も地域との縁を大切にしてほしいという思いで活動を実施。



デジタル活動

企業の協力によるデジタル関連活動

ポイント >>>

民間企業が「デジタル関連活動」への講師派遣を行い、活動を支援。

実施内容 >>>

デジタル関連活動の実施のため、のエンジニア等を講師として派遣。校内での学びにとどまらず、企業へのインターンシップや小中学生向けのICT教室開催なども行う。



放課後カフェの運営

放課後に高校生が集まれる居場所づくり

ポイント >>>

高校生自身の企画による、放課後に集まれる居場所づくり。

実施内容 >>>

自治体は場所と人を用意し、カフェの中身を生徒たちが考える。“生徒も一緒に居場所をつくり上げていく”という新たなチャレンジの場になることで、生徒たちの学ぶ意欲をさらに高める。

※改革先導拠点における教育改革と一体的に行う取組の経費等が基金の支援対象

地域との連携・協力の強化



高校生レストラン・マルシェ

食を学び・実践できる店舗・ECを開店

ポイント >>>

高校生が食品開発や販売に挑戦できる店舗・ECを開店。

実施内容 >>>

地元食材を使った新商品開発やフードロス削減のためのアプリやサービスを高校生が企画。レストランで実際に料理を提供、マルシェで販売、ECサイト運営も高校生が担当。教室での学びが社会につながり、地域貢献への意欲も向上する。



メディア発信での地域活性化

地域の魅力を発信するDXスタジオ開設

ポイント >>>

地域のニュースや観光情報を発信する「地域メディアスタジオ」を設置。

実施内容 >>>

高校生が地域の歴史・文化をVRで再現し、SNS等を活用して世界に発信。メタバース上で地域イベントを開催し海外から観光客を誘致。地域の観光データをAIで分析し、プロモーション戦略を提案、など。DXスタジオでは、ライブ配信やイベント開催を行う。



アート・デザインでの地域活性化

廃校や空き家を活用したアート・デザイン工房

ポイント >>>

廃校や空き家を「アート・デザイン工房」に転換し、地域文化を再構築。

実施内容 >>>

高校生が地域の伝統工芸を現代アートや商品に再構築、地域ブランドを高校生がデザインして店舗やECで販売。海外アーティストとのオンラインコラボで世界に発信、など。アート・デザイン工房では、商品の制作や販売を行う。

※改革先導拠点における教育改革と一体的に行う取組の経費等が基金の支援対象



地域の持続的成長を支える担い手の育成

特別支援学校高等部における職業教育の充実

ポイント >>>

障害の状態等も踏まえた実践的な職業教育の実施。

実施内容 >>>

知的障害のある生徒を対象とする就業技術科を設置し、実際の就労を念頭に、「ビルメンテナンス」「流通・都市農園芸サービス」「食品加工（調理・接客）」「介護・コミュニケーション（ホテル・介護）」の4コースを開設。校内には実習用のカフェ・レストランや、介護施設やホテルを再現した実習室を整備し、全てのコースにおいて実践的な職業実習を実施。



地域との連携・協力の強化



あらゆる場面で外部講師

多様な企業と連携・協働

ポイント >>>

複数企業と連携し、あらゆる場面で第一線の実務家から指導。

実施内容 >>>

管理職相当職として企業からコーディネーターを招聘。コーディネーターが学校と企業の橋渡し役となり、多くの地元企業と連携を図り、「課題研究」等の科目を中心として、様々な分野について第一線で活躍している実務家による授業・実習を展開。

※従前のマイスター・ハイスクール指定校では、年間36社超から講師を受け入れている事例もある。



特定分野のスペシャリスト育成

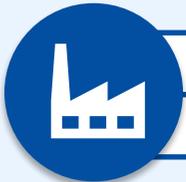
特定企業との連携・協働

ポイント >>>

地元企業と連携し、学校設定科目について年間を通じて企業から指導・助言。

実施内容 >>>

ロボットを専門的に学習できる学校設定科目を設定。地元ロボット関係企業に依頼し、常勤の教員として雇用。学校内はもちろんのこと、実際の工場に行き当該施設・設備を利用した実習も実施。



企業の一員として働く

デュアルシステムの導入

ポイント >>>

週1日、実際の企業で社内プロジェクトメンバーとして勤務。

実施内容 >>>

デュアルシステム※に関する学校設定科目を設定し、週1日は実際の企業で勤務（学習）するカリキュラムを編成。実際の「社員」として扱われ、最先端の技術の習得とともに、学校での学習がどのように社会とつながっているのかを理解できるなど、学習意欲も向上。

※企業での実習と学校での講義等の教育を組合わせて実施する仕組み。



高校生の発想で地域貢献

専門高校の学びを活かした商品開発

ポイント >>>

企業と連携し、地元特産品を活用した商品開発。

実施内容 >>>

高校生の発想で地元特産品を活かした商品開発を実施。教育課程内における連携はもちろんのこと、高校生が株式会社やNPO法人を立ち上げ、教育課程外でも連携。開発から販売までを行い、地域貢献とともに、実社会における活きた学びを実現。

地域との連携・協力の強化



#食から高校生の学びを支援

地産地消を意識した学校食堂を設置

ポイント >>>

学食を設置し、地産地消を意識したメニュー提供を通じて地域との連携を深める。

実施内容 >>>

学食において、地域の生産者や食物調理科等を置く専門高校と連携し、地域の農産物を活用した食事を提供する。寮が校舎に隣接している場合は、朝食・夕食を提供したり、こども食堂としても活用したりし、生徒や地域住民等が交流を図る場とする。

※改革先導拠点における教育改革と一体的に行う取組の経費等が基金の支援対象



#アクティブかつ気軽な学校公開

高校と公共施設をつなぎ開かれた学校を推進

ポイント >>>

公共施設（図書館、市役所等）に学校とインタラクティブなやり取りが可能なシステムを設置し、アクティブな学校開放を推進する。

実施内容 >>>

図書館や市役所等の市民利用スペースにテレビ会議システムを設置。高校生の研究発表などをオンラインで市民に公開するなど、開かれた学校づくりを推進する。また、高校生や教員によるオンライン市民講座等も実施し、地域への貢献を深める。

※本基金においては、学校に必要なオンライン配信設備や非常勤職員の報酬等に係る経費のみ対象



#地域ぐるみのキャリア教育

地域人材と連携した体験型キャリア教育

ポイント >>>

行政・観光・農業など、多方面の地域人材と連携した体験型キャリア教育の実施。

実施内容 >>>

行政・観光・農業などの地域人材がメンターとして参画し、体験型のキャリア教育を支援。高校生が地域課題の調査・分析・解決策を主体的に提案をし、行政の支援を受けて実践。メンターの伴走により、地域社会と接点を重視しながら学びを深化。



#資格取得

企業と連携した資格取得の支援

ポイント >>>

企業が教育課程の内外を通じて技術指導を行い、専門高校生の資格取得に向けた取組を支援。

実施内容 >>>

企業の社員が各学校に出向き講師として技術指導を行うほか、月数回企業の研修棟を開放し、高校生等を対象とした資格取得や興味関心を高めるための体験会を実施。

教育内容の高度化のための最新設備の導入・活用



#デジタルを活用した探究活動

生徒のアイデアをカタチにしたり
データを定量的に分析する資質能力の育成

ポイント >>>

創造性や問題解決能力を向上するための施設や設備の整備。

実施内容 >>>

生徒が自分のアイデアを形にするプロジェクトを通じて、創造力や技術力を実践的に養います。3Dプリンタやレーザーカッターを活用したプロダクトデザインなどを幅広い技術に触れながら生徒のアイデアを具現化しながら探究活動を推進。

また、地域企業や技術者との連携を強化し、実社会と連携しながら、より実践的なスキルを磨く。完成した作品は、プレゼンテーションや展示会を通じて他の生徒や教員に発表し、自己表現やコミュニケーション能力も育成。このスペースは、生徒が自分の可能性を広げるための重要な学びの場となる。



ファブリケーション機器の整備



ハイスペックPCの整備



#多種多様な実験を実施できる環境整備

次世代の科学技術や社会の担い手として
未来を切り開く人財の育成

ポイント >>>

大学の研究室レベルの設備や環境で、授業や実習に取り組める施設・設備を整備。

実施内容 >>>

科学技術4つの領域について学習し、更に生徒の興味ある領域（ロボット、情報、建築、化学生物）を選択し、専門知識と実践力を集中的に磨く教育課程を構築する。

さらに、① 文理融合の視点によるSTEAM教育の推進、② 将来の大学での学修に対応した柔軟なカリキュラム編成、③ データサイエンスを活用した理数探究の充実に取り組む。



高度な実験機器の設備・環境

教育内容の高度化のための最新設備の導入・活用



文部科学省



ICT活用による学びの充実

教科書代替教材を用いた授業実践

ポイント >>>

教科書代替教材を試行的に用いた授業実践を行う。

実施内容 >>>

現在は義務教育段階でのみ国費で提供されている教科書代替教材（いわゆる「現行の学習者用デジタル教科書」）を試行的に活用した授業実践を行うことで、生徒の学びの充実を図るとともに、高等学校での有効な活用事例を創出する。



ICT活用による学びの充実

教科書代替教材の活用に係る研修実施

ポイント >>>

県内の高等学校の教員を対象に、教科書代替教材の効果的な活用等に係る研修を実施する。

実施内容 >>>

県内の高等学校の教員を対象に、教科書代替教材（いわゆる「現行の学習者用デジタル教科書」）の授業における効果的な活用方法を周知するため、有識者による講義やワークショップ等からなる研修を実施する。



ラボ機能

先端機器を揃えたラボを活用

ポイント >>>

いつでも使うことのできる先端機器が揃った場所（ラボ）の整備。

実施内容 >>>

- 先端機器をいつでも使える環境を整備し、制作や実験等を身近に置くことなどを検討。
- ラボと教室を一体的に計画することも考えられる。
- 導入した設備は、地域社会や高等教育機関、企業等との連携学習でも活用することも考えられる。



専門性の高い機器等が整備された実験室



教室と連続する空間も活用した「デザインラボ」のイメージ



首長部局や施設担当部局との連携

部局連携による施設整備体制の構築

ポイント >>>

教育委員会と首長部局や施設担当部局との連携による施設整備計画の立案。

実施内容 >>>

施設整備を伴う高校教育改革の推進にあたっては、財政部局をはじめとする、首長部局のほか、施設担当部局にも計画の初期段階から連携をとりながら、新しい教育内容に適合した施設整備計画を検討することも考えられる。

教育内容の高度化のための最新設備の導入・活用



#DX機器の活用

最先端の技術の習得、即戦力人材の育成

ポイント >>>

デジタルを活用した最先端の学びを実現するための設備整備。



実施内容 >>>

スマート農業やデジタルものづくりなど、最先端の実験・実習設備を用いた技術の習得や、各産業におけるDX化を推進する牽引役としての人材育成を進める。



#STEAM教育

イメージを形にする中で探究心を養う

ポイント >>>

発想を形にしながらか探究的な学びを推進するための設備整備。

実施内容 >>>

様々な加工技術を用いて、イメージを形にしていく中で、探究的な学びの深化を図る。

設備の例：マシニングセンタ、金属切断レーザー加工機、3Dプリンターなど



#研究・探究活動

最新の技術を用いた研究・探究活動の深化

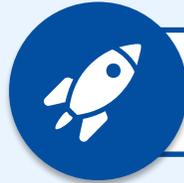
ポイント >>>

より高度で専門的な学びを実現するための最新設備整備。



実施内容 >>>

大学や産業界等と連携した、研究や探究活動を進めることができるよう、調査・観察・実験に必要な最新機器の整備を行う。



#疑似体験

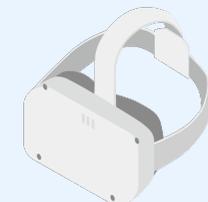
リアルでは遭遇できない現場を疑似体験

ポイント >>>

実際の産業現場を疑似体験できるような実験・実習設備の整備。

実施内容 >>>

医療や福祉の生命に関わる現場、工業や水産などの危険を伴う現場を実感を伴った形で実習し、非常時の対応を学ぶとともに即戦力の人材育成を進める。



教育内容の高度化のための最新設備の導入・活用



文部科学省



あらゆるものを作ることのできる環境の提供

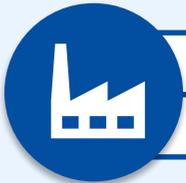
デジタルモノづくりの環境を整備し、
学びや部活動で活用

ポイント >>>

学びや部活動で自由に使えるデジタル工作機が整備された環境を整備することで、学習・部活動等の充実を図る。

実施内容 >>>

多様な高性能PC、デジタル工作機（3Dプリンタ、レーザーカッター、CNC加工機等）、センサ、各種ソフトウェア等が整備された部屋を整備。探究的な学びや学校設定教科での活用や部活動等の際に、生徒が興味・関心に応じて主体的に探究することのできる環境を実現。



デジタルを活用したクリエイターの創出

映像制作・表現活動のための専用空間の提供

ポイント >>>

映像制作や表現活動のための専用空間を整備し、生徒がクリエイターとして創作しながら学ぶ活動の充実を図る。

実施内容 >>>

高性能PC、動画撮影・編集機器、音響・照明設備、CG・映像編集ソフトウェア、モーションキャプチャー機器等を整備した映像制作・表現活動のための専用空間を整備。一連の制作プロセスを体験的に学ぶことが可能とし、生徒が主体的・創造的に活動できる環境を実現。



デジタルを活用した体験の提供

デジタル技術を活用し
時間・場所の制約を超えた学びを実現

ポイント >>>

時間や場所の制約により実現が難しかった体験学習や遠隔協働などを、デジタル技術を活用して実現する。

実施内容 >>>

XR、メタバース、センシング、ロボット技術等の技術を活用することで、例えば海外の建造物を空間的に理解したり、生物構造を内部から把握したり、離れた学校等との協働的な学びを行うこと等が可能となり、時間や場所の制約に縛られない五感を使った学びを実現。



AIエンジニアリングの入口の体験を提供

AIを使うから設計・実装・運用する実践空間

ポイント >>>

AIを設計・実装・運用する実践する活動ができる部屋を整備することで、社会で通用する高度な情報活用能力の充実を図る。

実施内容 >>>

GPU搭載高性能PC、生成AI API・ローカルLLM環境、高速・安定ネットワーク環境等を整備したAIモデルを組み込み、動くシステムとして成立させるための専用空間を整備。データ分析や生成AIの単なる活用で終わらず、機械学習モデル構築やAIシステム設計から体験することで、実社会で通用する情報活用能力の充実を図る。

教育内容の高度化のための最新設備の導入・活用



次世代のデジタル教育を支える研修拠点化

地域の教員が最新技術を学び、小中高が連携してデジタル・AI人材を育成する拠点校を整備

ポイント >>>

高校の高度な設備と専門性を地域に開放し研修等の拠点とすることで、小中高全体でデジタル・AI人材を育成する体制を実現。

実施内容 >>>

地域での小中高一貫したデジタル・AI人材育成を牽引する小学校や中学校情報・技術科（仮称）等を見据えた教員を育成する拠点を整備。3Dプリンタ、レーザー加工機、センサ類、AI環境、ロボットなど、今後標準化されるデジタル機器を配備し、研修や授業支援を実現。



個別最適なコンテンツ提供と質向上

AI等を活用し個別最適なコンテンツを提供し、探究に資する信頼性の高い専門資料を拡充

ポイント >>>

AI等を活用し個に応じた学習コンテンツを提供するとともに、深く内容を探究できるよう専門的な資料を閲覧できる環境を整備。

実施内容 >>>

AI等により学習状況や関心に応じた教材や学習コンテンツを提示する（例：理解度に応じた英会話等）とともに、電子ジャーナル等の信頼性ある情報にアクセスできる環境を整備することで、AI等のデジタル技術を活用しつつ、知識の定着とより深い探究を実現。



校務DXによる教育の高度化

データ利活用の推進等

ポイント >>>

データ利活用を実現する環境を整備することで、教職員の負担軽減や生徒に対する指導・支援の充実を図る。

実施内容 >>>

義務教育段階における次世代校務DX環境※との円滑なデータ連携を可能とする校務支援システムや工業等の専門分野にも適応した学習系との連携や校務改善に資するシステム等を整備することで、教職員の働き方改革を進めるとともに、教育データ利活用による個別最適な学習環境を実現。

※都道府県域内での共同調達・共同利用を前提としたクラウド対応の校務支援システム

※※改革先導拠点における教育改革と一体的に行う取組の経費等が基金の支援対象



教育環境の質的向上のための改修等



#デジタルを活用した探究活動

社会課題の解決に向けて
データを定量的に分析する資質能力の育成

ポイント >>>

協働性や問題解決能力を向上するための施設や設備の整備。

実施内容 >>>

生徒が主体的・協働的に学習に取り組むため、探究的な学びを支える環境を整備。具体的には、グループ活動等の協働学習を行える教室の改修整備や社会課題の分析・解析をするため、ビッグデータを処理することが可能なハイスペックPCの整備。

対話的・協働的に学習することで、多面的な見方・考え方、論理的思考力を育成する。また、探究活動の中で得られたデータを多面的・多角的に分析し、解決策を考えることで、課題解決力を育てる。



ディスカッションのための
自由なレイアウト



ハイスペックPCの整備



#実験施設の充実による主体的な学びの促進

生徒自ら課題を発見し、解決策を
立案して実験に取り組める環境を整備

ポイント >>>

生徒の主体的な学習活動を支援する施設整備。

実施内容 >>>

生徒が主体的に学習へ取り組むため、探究的な学びを支える環境を整備。具体的には、課題設定のための事前調査や文献探索を行える情報コーナーを設置し、必要な機材・試薬を柔軟に利用できる実験スペースを確保。

試行錯誤を尊重する指導体制を整え、教員が生徒の発想を引き出す対話を重視する。さらに、グループで意見を共有し解決策を磨く場を設けることで、生徒が自ら考え、計画し、実験を推進する力を育成。



研究機能の充実を図るため
の実験室環境の整備



実験室内に情報コーナー
を確保

教育環境の質的向上のための改修等



学校全体が学びの場

既存建物改修におけるオープンスペース等の配置

ポイント >>>

既存建物を活用した整備であっても、オープンスペースなど多様な場を平面計画に組み込むことで、少人数での議論や個別の学習など多様な学習・活動の展開が可能となる。

実施内容 >>>

オープンスペースの効果的な配置のため、以下のような取組が考えられる。

- ・既存建物の平面計画にとらわれず、多様なスペースを組み込んだ計画を検討する。
- ・例えば増築を併せた計画も考えられる。
- ・動線や備品の配置など人が集まる工夫も検討する。



探究型学習空間



学びに応じた可変性の高い
オープンスペース

※写真はイメージ(新築建物)



教科等横断的な学習

生徒同士の対話や発表等を踏まえ 備品も含めた計画・整備

ポイント >>>

教室の機能を拡張する。

実施内容 >>>

教室の機能の拡張のため、以下のような取組が考えられる。

- ・教科等横断的な学習に柔軟に対応できるよう、学習関係諸室相互の位置関係や必要な施設機能を配置する。
- ・教科等の関連性を踏まえて一体的・連続的な利用が出来るように配置や間仕切りを検討する。
- ・教室内に可動のホワイトボードや備品を配置することで、グループごとの学習など多様な学びを可能とする工夫なども考えられる。



講義室と福祉介護実習室の
一体的整備



ディスカッションのための
自由なレイアウト

教員研修の実施



デジタルを介した探究活動の充実

教員のデジタルスキル活用研修

研修内容 >>>

域内の大学や民間企業等と連携し、数理、データサイエンス、A Iに係る研修会を実施し、デジタルスキル等の習得による探究活動の充実に目的とする。

- 生成A I等の活用した組み込みシステムの構築
- R P Aを前提とした情報システム構築に係るプロトタイプやアプリケーション等の作成等
- A Iリテラシー向上研修の実施



理数系教員の指導力向上

理数系教科・科目の指導力向上研修の推進

研修内容 >>>

- 教員の経験等に応じた研修により、理数系に関する知識・技能及び指導力と専門性の向上を図ることを目的とする。
- 理数系教科担当者研修を実施し、理数系教育に係る指導の充実に図る。また、理数系教科に係る探究活動の指導方法についてのスキル向上を図る。
- 夏季休業期間中に、データサイエンスやプログラミング等のオンライン研修を実施し指導の充実に図る。
- 外部専門家による研修及びワークショップを実施



探究・STEAM教育の推進

探究活動を推進するための資質能力の向上

研修内容 >>>

デジタルを活用した教育を充実させるため、DXハイスクールやSSHやスマート専門高校と連携し、学校・大学・企業等で構成する委員会を設置し、高校段階で求められるSTEAM教育に必要な教材を研究する。

- 「教科横断的探究プロジェクト研修」
 - ・STEAM教育や探究的な学びの推進に向けた教科横断的な視点による指導力の向上
- 「データサイエンス講座Ⅰ・Ⅱ」
 - ・データの収集・分析等、課題解決の手法についての理解の深化



探究活動におけるプロンプトエンジニアリング

デジタル指導力で域内連携

研修内容 >>>

- 各種研修・講座の受講による機器の操作スキル及び機器を活用した指導力の向上
- 成果普及や情報公開により、探究的な学びの手法を域内全体へ展開
- 生徒の成果発表会の取組を広め、学校をまたいだ課題研究を展開⇒教員のデジタルスキル・リテラシーの育成・向上により、デジタル機器の活用や探究的な学びにおける域内各校の指導を充実

教員研修の実施



都道府県を挙げての取組

教育委員会事務局主催の研修

ポイント >>>

教育委員会が関係機関と連携して教員研修を実施。

実施内容 >>>

都道府県教育委員会事務局が、知事部局の産業部局や域内の関係機関と連携し、各種教員向けセミナーや企業見学会などを開催。教員の産学連携への意識醸成を図る。



探究型研修の実施

教職員支援機構(NITS)実施研修

ポイント >>>

「研修観の転換」の推進を図る研修マネジメント力協働開発プログラム(地域版)の実施。



実施内容 >>>

「新たな教職員の学び」と「研修観の転換」を实践する研修として、参加者が「主体的に実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、協働的に各自の課題を探究し、次の実践へと繋げる」プロセス全体を対象とした、「課題探究型」の研修を実施。

こうした取組を通じ、探究的な学習の充実を加速するとともに、域内への成果普及を図る。

学校間連携の強化等



課程間併修の強化

課程の垣根をこえた多様な学びの実現

ポイント >>>

全定通の課程の垣根をこえた学習機会と教育資源の連携を拡充。

実施内容 >>>

生徒が在籍する課程にとらわれず、興味・関心や進路に応じて必要な学習ができるよう、異なる課程間で教育資源を共有し、生徒の選択の充実を図る。あわせて、ICT環境など学校施設設備の整備・共同利用を進め、多様な学習機会を確保する。



学校間連携の強化

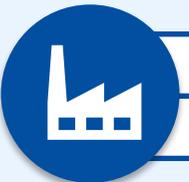
小中高の連携による切れ目ない学びの実現

ポイント >>>

小学校・中学校・高等学校の連携体制を構築し、生徒の学びを保障。

実施内容 >>>

小中高が学習状況や生活面の情報を共有し、生徒が安心して次のステップへ移行できる体制を整える。発達段階に応じた系統性あるカリキュラムを学校種を超えて協働して構築し、教職員の合同研修により指導の質と一貫性を高め、生徒が学校段階をこえて主体的に学び続けられるよう支援体制を強固にする。



学校間連携の強化

交流・共同学習を目的とした授業の開設

ポイント >>>

高校と特別支援学校の併設による日常的な交流・共同学習の実施。

実施内容 >>>

交流・共同学習の実施にあたり、複数の「授業タイプ」を設定。高校と特別支援の授業をお互いが受講できるようにしたり、両校の生徒と近隣の高校の生徒が共同学習したりするなど、様々な形での授業タイプが考えられる。



学校間連携の強化

ソフト導入による遠隔授業の効果的な運営

ポイント >>>

共同編集のワークシートを活用して遠隔学習の進捗を把握。

実施内容 >>>

遠隔授業でアプリケーションやワークシートを活用し、授業者と生徒で共有。全員で共同編集することで、生徒の書き込みを授業者がリアルタイムで把握。授業者が生徒の書き込みを確認しながら、生徒に声掛けを実施。





学校間連携の強化等



学校間連携 # 域内普及 # 学科連携

水産高校の取組を農業高校へ普及

ポイント >>>

水産高校と農業高校の学科を超えた連携。

実施内容 >>>

水産高校で取り組んできた等と連携した取組を、域内の農業高校と合同で推進。お互いの学科の知見に基づき、新たな発見や学びが生まれる。



域内への成果普及

連絡協議会の開催

ポイント >>>

改革先導拠点の取組や高校改革のあり方について、域内の理解を深める。

実施内容 >>>

- ・域内関係者に対して、改革先導拠点の取組の進捗について、発表を行う。
- ・整備した施設設備等を紹介することで、域内の利活用を促進する。
- ・高校改革に向けての課題ごとにテーマを設定し、参加者間で意見交換を行う。
- ・教職員の研修の機会として活用する。



域内への成果普及

高校生フォーラムの開催

ポイント >>>

生徒の探究活動の成果発表の場を創設。

実施内容 >>>

- ・探究活動の成果について発表し、参加者や審査員（有識者）による質疑応答を通して、研究内容について理解を深める。
- ・発表内容をカテゴリーに分け、参加者が共通するテーマに分かれて意見交換を行う。
- ・留学生や海外の高校から参加者を募ることで、国際的な視野を広げるとともに、英語でのコミュニケーション力を向上させる機会とする。



オンライン接続で設置科目の多様性向上

域内の小規模高校をオンライン接続

ポイント >>>

小規模校をオンラインで接続し、多様な科目の開設や習熟・進路に合った科目、特徴的な学校設定科目の双方向受講を実現。

実施内容 >>>

遠隔授業に必要な設備を整備し、小規模高校でも少数ながらニーズのある理科学科や数学Ⅲ等を遠隔授業を行ったり、習熟に合わせた科目の履修や探究学習の同時開催を行うことで、小規模校でも科目選択幅のある多様な学びを実現。



学校間連携の強化等

共生社会の実現に向けた学習 インクルーシブな教育環境の整備

ポイント >>>

障害のある生徒もない生徒も、ともに学ぶことができる環境を整備。

実施内容 >>>

○エレベーター設置等のバリアフリー化を行うことで、障害のある生徒の学習ニーズに対応できるだけでなく、特別支援学校の生徒との交流や共同学習など共生社会の実現に向けた学校活動を展開しやすくなると考えられる。

○特別支援学校の分教室を、高校の空き教室を活用して開設し、当該生徒等との交流や共同学習を行うことも考えられる。



特別支援学校との交流の様子



交流を支える施設整備

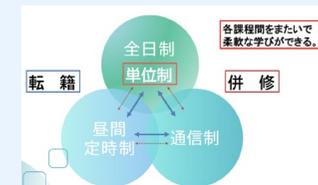
学校間連携の強化 全定通の3課程からなる連携・協働

ポイント >>>

全日制・昼間定時制・通信制の3課程を1つの学校に併置した単位制の高等学校を設置。

実施内容 >>>

教員が他の課程の生徒を教えることや、全日制で行われる補習授業などに昼間定時制や通信制の生徒も参加可能となり、課程間をまたいだ柔軟な学びを実現。



資質能力の測定 アセスメントテストの実施

ポイント >>>

生徒の資質・能力の伸びを客観的なツールで測定。

実施内容 >>>

生徒のリテラシー、コンピテンシーなどの能力を客観的に測定するツールとして、民間のアセスメントテストを活用。事業開始時からの推移により事業効果を測定する。

【本アイデア集について】

文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付 基金担当作成（令和8年2月）

TEL: 03-5253-4111（内線3807） E-mail: koukoukaikaku@mext.go.jp